

OCTOBER 1992 VOL.54

# ARAI NEWS

最近、いわゆるネイキッド派といわれるバイクと共に、そのネイキッドバイクを昔風のビンテージタイプに改造してファッショナブルに乗るライダーの方が多く見受けられるようになってきました。こういったビンテージバイクに乗るにはファッションも大切です。

ヘルメットもアストロビンテージやSZ、FXをかぶり、決めたスタイルで乗ればなかなかカッコ良いものですが、中にはヘルメットまでも、50年代後半から60年代中頃までによく見られたハーフ型や、緩衝体の厚みが極端に薄いオープンフェイスをかぶっているライダーもいるようです。これは困りものです。安全性まで逆戻りすることが果たしてカッコ良い事なのでしょうか。

+

ヘルメットで大切なのはもちろん頭を守る事です。しかもオートバイに乗るライダーは万一の際、バイクから飛ばされてしまうのですから、その頭は、どの角度から地面に落ちていくかはわかりません。横から落ちる事もある、後ろから、あるいは前から落ちる事さえある訳です。だから頭を守る範囲が広ければそれだけでも安全性は高いと言うこともできるのです。頭の上にチョココンと乗せるだけのハーフ型でどれだけ頭を守れますか。一度じっくり考えて見て下さい。

+

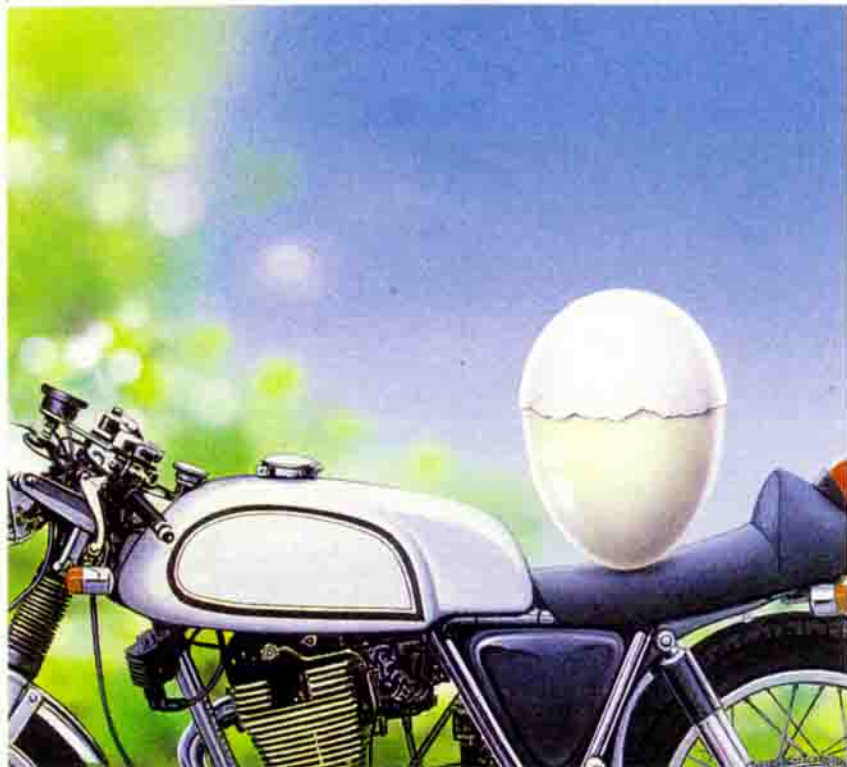
そして、ヘルメットはどのように頭を守っているのでしょうか。簡単な例で説明します。猛スピードで走る車がノーブレーキで壁に激突する。これでは中に乗っている人は、たまったものではありません。しかし、壁にぶつかる前に急ブレーキを踏めば助かる事も可能です。ヘルメットの緩衝体の役目はこの急ブレーキです。外側の帽体が、頭が直接地面に激突するのを防ぎ、叩き付けられる地面の衝撃をしっかりと受け止めます。そして、内側の緩衝体がブレーキがわりとなって、頭全体が緩

衝体を押し潰すようにしてゆっくり止まるのです。これにより頭とその中身の脳が守られる訳です。緩衝体は、車のブレーキの役目を果たす大切なものです。だから、その厚みもしっかりとられていなければ頭を守る事はできません。緩衝体の薄いヘルメットでは、頭はそのまま帽体の内側に激突してしまいます。言い換えるならば、ブレーキのない車を運転するようなものです。考えて見れば恐ろしい事です。

+

Arayは、世の中の流れに敏感です。だからといって頭を守るという大切な役目を放棄してまで、世の中に迎合しようとは思いません。

なぜならばArayを作る多くの人がバイク好きだからです。中には、いわゆるオワン型をかぶっていたら、今頃この世にいなかったらという人も何人かいます。そういった事故に出会う度に、しっかりとヘルメットを作り続けなければならないと誓ってきました。頭は、自分の最も大切な財産です。その自分の頭の価値がどれくらいのものか一度考えて見て下さい。その価値が大きければ大きいほど、しっかりとヘルメットを選ぶ事をお薦めします。Arayは宣言します。「ビンテージバイクのライダーでも、頭の価値を知らないライダーは、見るのも恐ろしいほどカッコ悪いライダーです。」



## カッコいいライダーとカッコ悪いライダー

(株)アライヘルメット  
〒330 埼玉県大宮市東町2-12  
TEL(048)641-3825~7



●アフターサービスの窓口は品質管理課です  
製品の車なら、お気軽にご相談ください  
直通 TEL(048)645-3661